

開発を止めない脆弱性診断

内製化を強力にサポートする
AeyeScanデモ動画

登壇者紹介

Podcast 配信中



株式会社エーアイセキュリティラボ

CX本部マーケティングマネージャー **長谷川 由利子**



生産管理パッケージメーカーにてCSに3年従事。2018年より、S k y 株式会社にてセキュリティ製品の研修・セミナーの企画立案や講師を担当。通算300回以上のセミナー・研修を実施し、組織のセキュリティリテラシー向上を支援。

2023年より株式会社エーアイセキュリティラボに参画。マーケティングマネージャーとして、AIを活用したクラウド型Webアプリケーション脆弱性診断ツール「AeyeScan」の顧客ロイヤリティ向上を牽引。企業の「Webセキュリティ対策」や「脆弱性診断の内製化・自動化」をテーマとしたセミナーの企画を数多く手掛ける。Podcast「ゆるセキュ。」のパーソナリティ兼運営も務める。

自社が公開しているWebアプリケーションを、
どこまで把握し、診断できていますか？

適切なセキュリティ対策が取れていないと
サイバー攻撃や情報漏えいのリスクが・・・

脆弱性診断が、開発スピードのボトルネックになりがち

診断すべき対象の増加

マイクロサービス化やクラウド利用の拡大で、
診断すべきWebアプリケーションやAPIが急増

アジャイル開発やCI/CDとの ミスマッチ

従来型の「まとめて診断」では
診断待ちが発生する上、手戻りが増える

外部ベンダーとの調整コスト

診断ごとにスケジュール調整が必要となり、
契約から診断完了までに時間がかかる

セキュリティ人材とノウハウ不足

診断結果の精査や解釈に手間取り、
修正対応に時間がかかる

特に「診断待ち」や「手戻り」が発生していませんか？

また、全社視点では、「診断以前」の課題も

Web資産が増え続けている

事業やサービスのデジタル化により、
管理すべきWebサイトやAPIが増加

部門ごとに個別管理されている

事業部門やグループ会社が独自に構築し、
全社で情報が集約されていない

管理台帳から漏れやすい

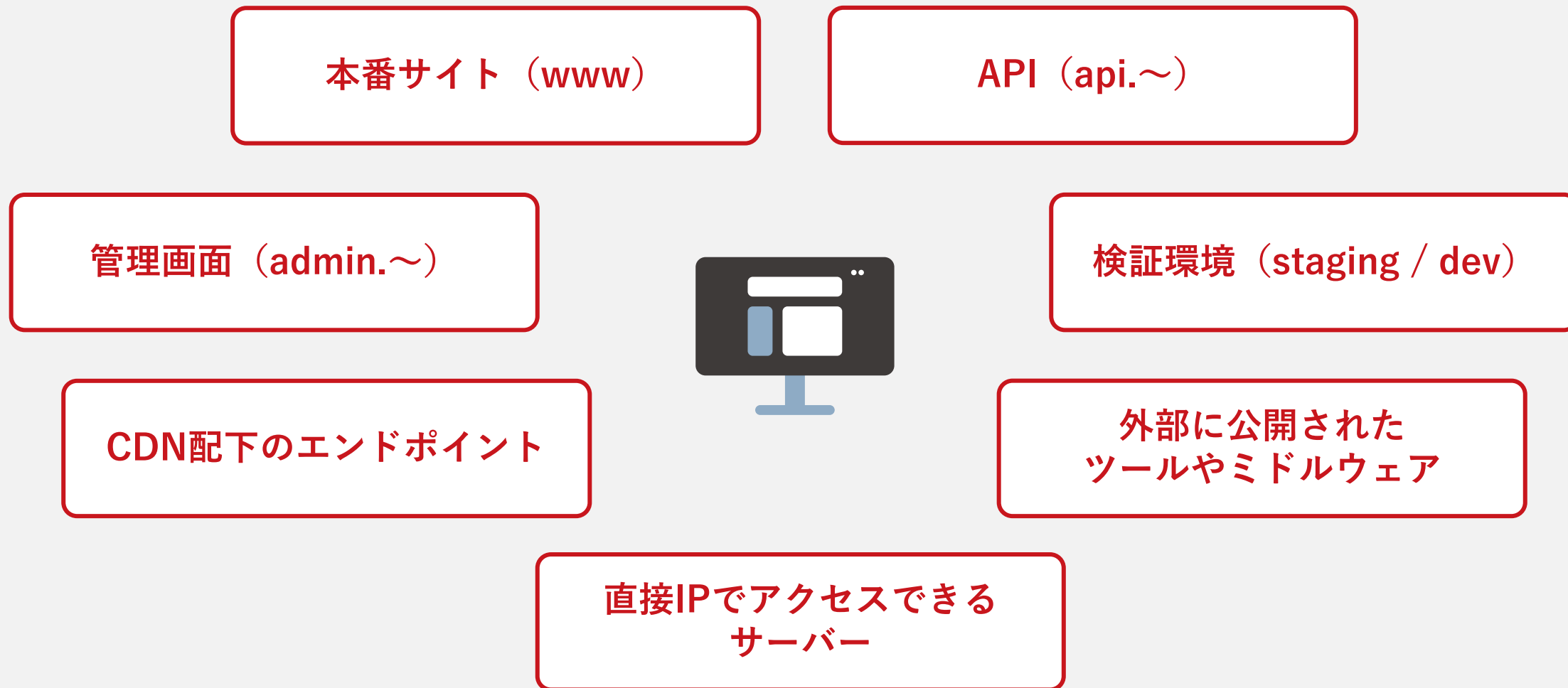
検証環境や管理画面、過去に公開した
サイトなどが把握されにくい

変更状況を追いきれない

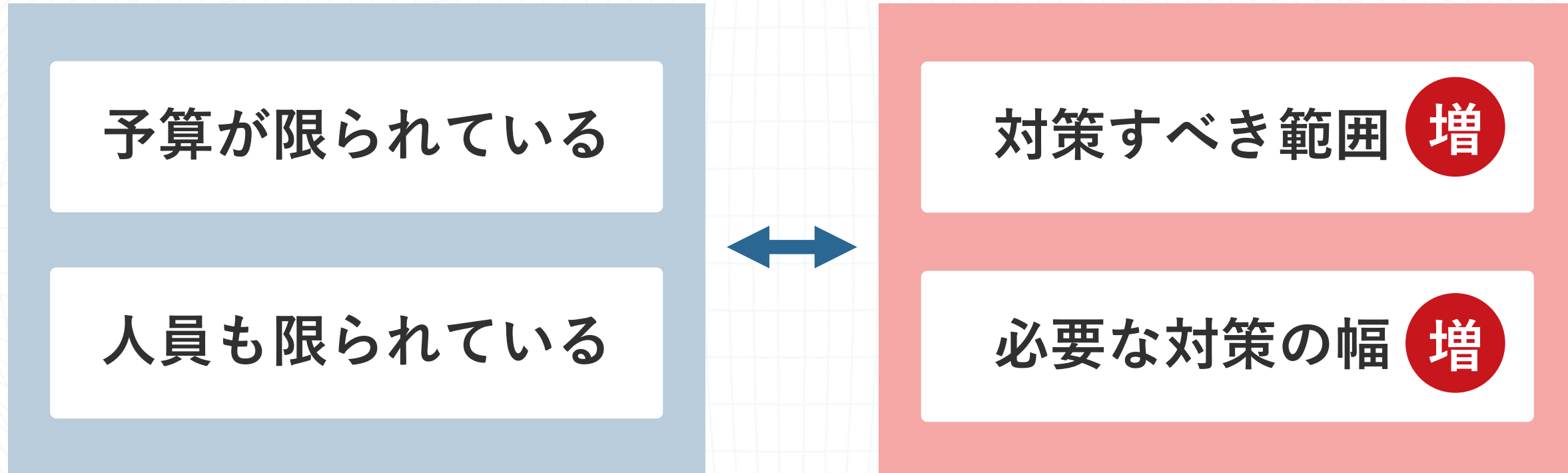
新規公開や構成変更が繰り返され、
最新の状態を維持するのが難しい

診断すべき対象そのものを、全社で把握し続けることが難しくなっています。

Web資産はいろいろな「顔」を持っており、すべてが侵入口になり得る



仮にすべてを把握できても、網羅的に診断するのは難しい



すべての資産に同レベルの対策を実施することはできません。

だから「優先順位づけ」が欠かせない

優先度

高



低

時間・コストをかけて **診断** する

脆弱性がないかどうか
詳細に検査しリスクを特定

低コストで広範囲を **監視** する

状態の変化やリスクの兆候を
継続的にチェック・再評価

何を重点的に診断し、何を監視対象にするか

｜ これからの脆弱性対策に必要なこと

これまで

資産の台帳管理



外注診断



Excelレポート



各部門へ連絡

これからの理想

資産の継続的な発見



リスクの把握
優先順位づけ



継続的な診断運用

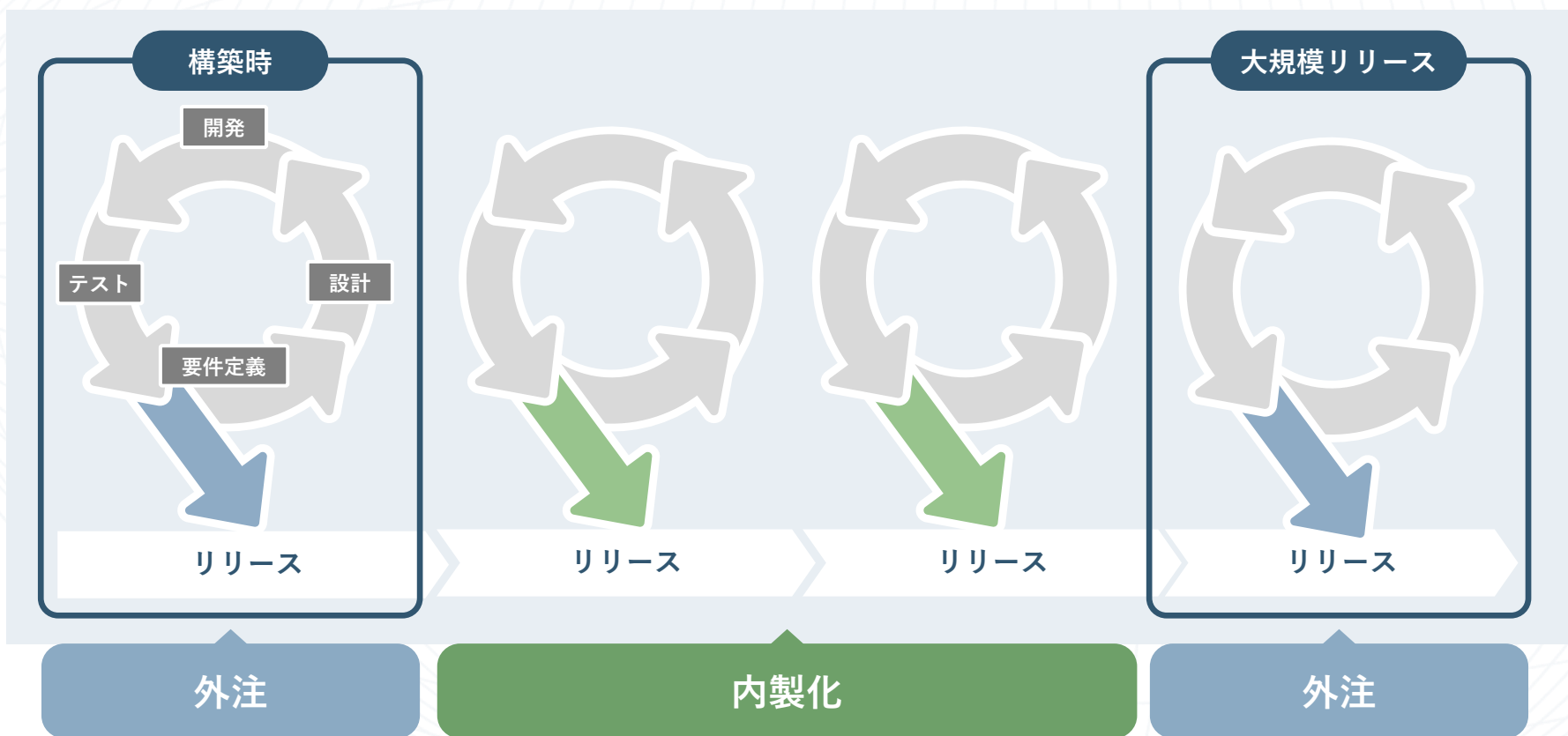


対応
継続監視

発見～優先順位に応じた対策を「継続的」に実施していくことが求められています。

診断は、内製と外注を組み合わせる「ハイブリッド運用」で最適化

開発プロセスに組み込むことで、スピードとセキュリティを両立できる。



大規模リリースは
外部に任せ、日々の
小さな更新は社内で。

状況に応じた
診断体制で、継続的な
セキュリティを実現。

内製化のための「ツール選び」でよくあるお悩み

しかし、いざ内製化を検討しようとしても、課題が...

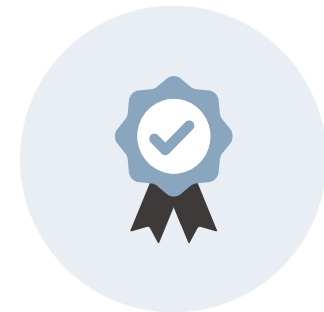
専門知識がない
社内メンバーで
対応できない



ツールを導入しても
使いこなせず
かえって工数がかかる



診断の精度や
カバー範囲など
品質に不安がある



脆弱性診断ツールを選ぶ際に、検討すべき観点は4つ

導入コストも大切ですが、専門知識がないメンバーでも使いやすく、精度が高く、運用がしやすいツールを選ぶことがポイント。

コスト(ツール価格)

操作性(工数)

診断項目

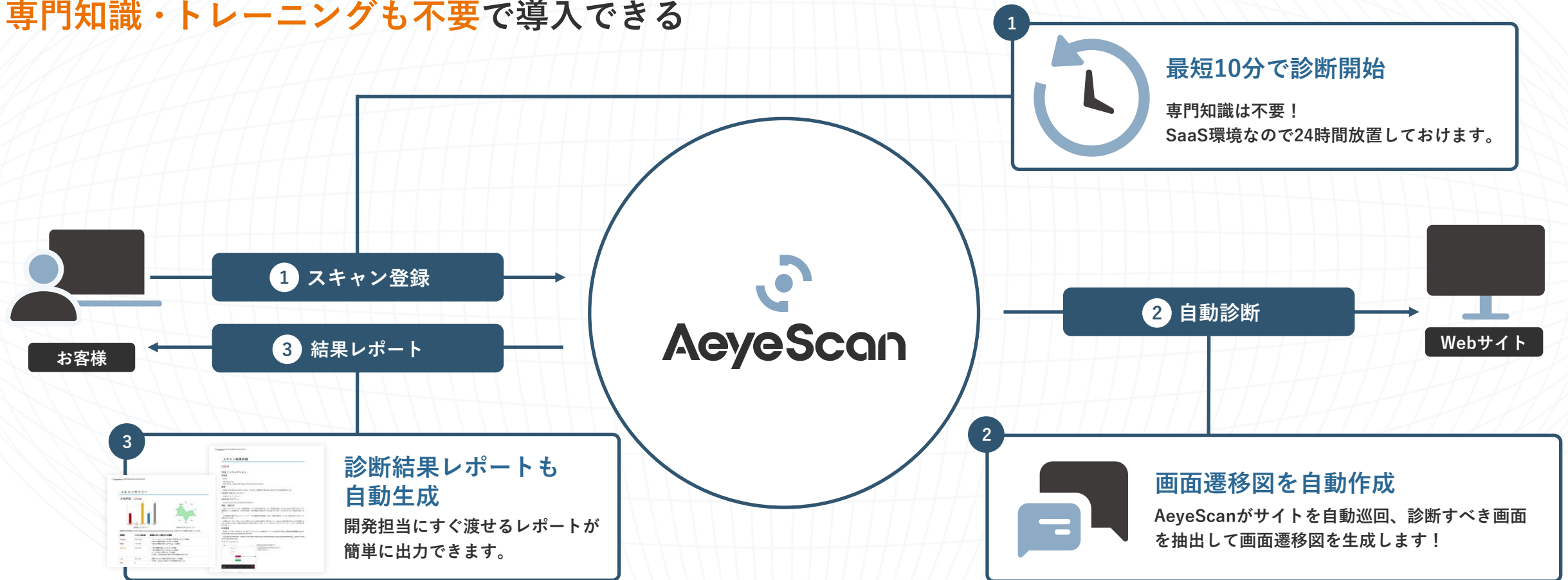
精度(誤検知の少なさ)

AIを活用したクラウド型Webアプリケーション脆弱性診断ツール

AeyeScan をご紹介させていただきます！

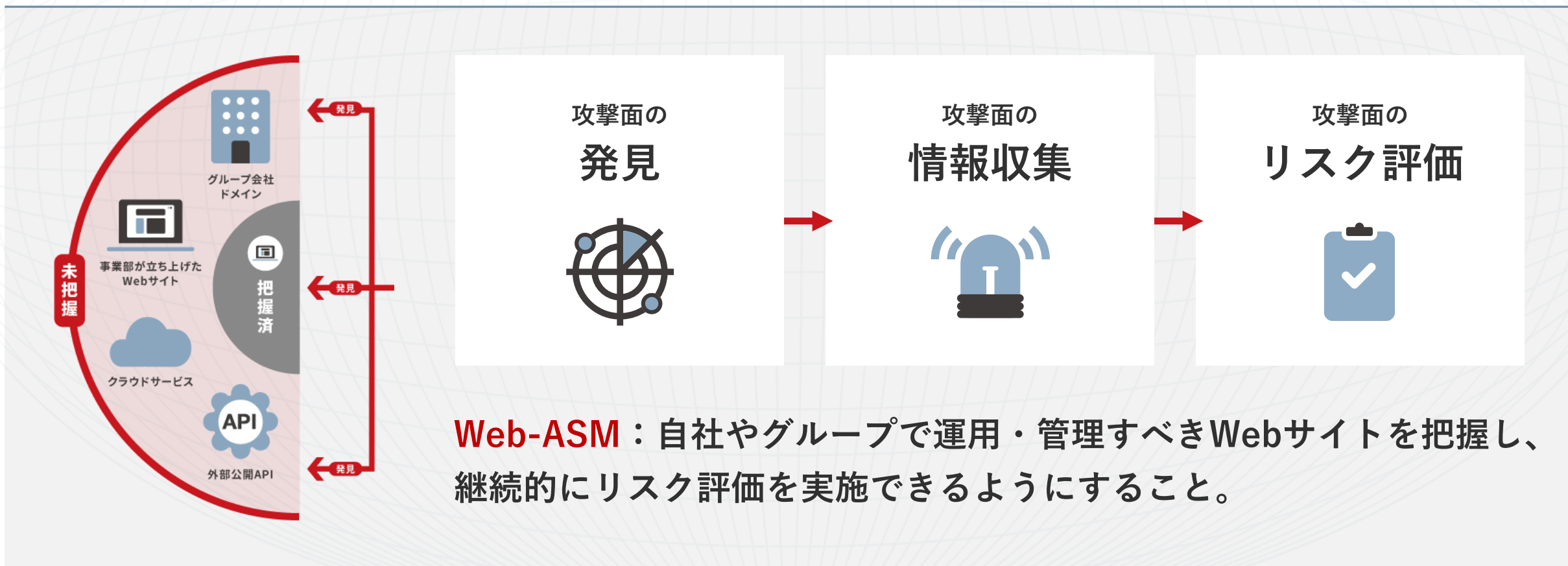
AeyeScanのポイント

専門知識・トレーニングも不要で導入できる



Web資産の可視化を自動化する「Web-ASM」機能を搭載

ASMのアプローチをWeb資産に最適化させた「Web-ASM」機能を搭載。
未把握のWeb資産を生成AIが自動で可視化し、リスク評価までを仕組み化することが可能に。



専門知識が必要な「対応の優先順位」もAIがサポート

Web資産の重要度とリスクの深刻度をAIが判定。属人的になりがちな「判断」の工程まで定型化します。

Web資産の重要度

各Web資産の属性

(サイト用途、保持データなど)

リスクの深刻度

NEW

ミドルウェアやライブラリの悪用観測脆弱性※

※既にサイバー攻撃で悪用が確認された脆弱性



製品情報サイト

重要度：中

2件



ミドルウェアA CVE-xx 深刻度：高
ミドルウェアA CVE-xx 深刻度：中



ECサイト

クレジットカード
情報保持

重要度：高

1件



ライブラリB CVE-xx 深刻度：低



ヘルプサイト

WordPress使用

重要度：低

10件



ミドルウェアC CVE-xx 深刻度：高
ライブラリD CVE-xx 深刻度：高

:

発見から評価までをひとつの「定型フロー」に統合

公開Webサイトの検出

Webサイト全体の把握

脆弱性診断によるリスク評価

把握済みの
Webサイト



自動巡回・診断

未把握の
Webサイト



発見

登録

自動巡回・診断

 **AeyeScan**



Web-ASM



自動巡回



脆弱性診断

 **AeyeScan** (エーアイスキャン) により
セキュリティ対策にかかる **コストを削減!**



クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア
No.1※



※ 富士キメラ総研調べ「2025 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」Webアプリケーション脆弱性検査ツール ベンダーシェア (2024年度実績)

※ ITR調べ「ITR Market View: サイバー・セキュリティ対策市場2026」SaaS型Webアプリケーション脆弱性診断・管理市場: ベンダー別売上金額シェア (2024年度実績)

プロが認める品質・精度

セキュリティベンダーやSIerでも
顧客向けサービスとして活用



ブラウザ上での直感的な操作

専任エンジニア不要、情シスや開発部門でも
安定した運用が可能

さまざまな企業さまに導入いただいております

ユーザー企業

インフラ※



エンタメ



メディア



製造



金融



人材・教育



SaaS



SI・IT企業



セキュリティ企業



※公共および社会・生活基盤までを包含

社名五十音順（導入いただいた企業様の一部です）会社名及びロゴは各社の商標または登録商標です

AeyeScanにご興味をお持ちいただいた方へ、 トライアルをご用意しています

トライアルとは？

「AeyeScanで自社のWebサイトを適切に診断できそうか」を検証いただくための取り組みです。

- いざ導入を決めたものの診断できない箇所があり、すぐに導入できなかったケースがございます。
→検討初期段階であっても、まずはトライアルをお試しいただくことを推奨しています。
- トライアルでは、操作支援などのサポートも行います。
- トライアル開始に必要なのは以下の3点のみ。お気軽にお申し込みください！
 - ・ 検証するサイトの選定
 - ・ 問診表のご一読と社内周知
 - ・ AeyeScanのIPアドレス許可設定



AeyeScan

セキュリティに、確かな答えを。